



駐名古屋中華人民共和国総領事館と岐阜日中文化交流協会の出前授業では、中国伝統の切り紙「剪纸」に児童もチャレンジ。

# ここに教育あり

## 領事館プロジェクト ～キラリと光る津島の教育～

愛知県津島市教育委員会  
教育長

あさ い あつ し  
浅井 厚視



### 領事館プロジェクトとは

愛知県津島市は、名古屋の西側に位置し、ユネスコ無形文化遺産に「山・鉾・屋台行事」の一つとして登録された尾張津島天王祭の街として有名です。津島市では、県内にある8つの領事館を通して、国際交流を行っています。市では、春の尾張津島藤まつり、夏の尾張津島天王祭、秋の尾張津島秋まつり（山車・石探祭車・神楽）に領事館の方たちを招待し、また領事館で開催されるフェアや講演会などに市民が参加しています。人権を尊重し、ダイバーシティ（多様性）を認め合う街づくりを目指しています。

市の教育委員会ではこの方針を基に、キラリと光る津島の教育を進めるため、自分と異なる他者の存在をそのまま尊重する「共生力」（共生力とは、①まわりの人たちとお互いの存在を認め合い、多様な社会を創り上げる、②多面的で多様な見方・考え方ができるようにする、③共に今の時代を生きている共存の感情をもつ）を育てたいと考えています。そのため領事館の方たち、領事館をサポートする方たちを紹介し、8年前から国際

交流活動「領事館プロジェクト」を展開しています。

### 多様な見方・考え方を育てる

津島市には8つの小学校があり、県内の8つの総領事館・領事館と2年間を期間とした交流を進めています（2年間が過ぎたところで交流相手を交代）。令和4・5年度は、東小がベルー、西小がブラジル、南小がフィリピン、北小が韓国、神守小がカナダ、蛭間小がトルコ、高台寺小が中国、神島田小がアメリカ合衆国との交流を行うことになりました。学校の規模や考え方により、全校体制の交流であったり、高学年のみの交流であったりします。総合的な学習の時間（学校によっては人権総合的学習と言っています）を活用しています。どの学校もその日だけの交流ではなく、領事館本国や紹介する津島の街の調べ学習をした後で交流しており、総合的な学習の時間の一つの単元として活動を行っています。

8つの小学校では、国際交流活動に際して津島の街の紹介をするため、津島の歴史・文化・祭りについて調べ学習を行っています。津島市には歴史学習のための副読

本『語り継ぎたい津島の歴史 津島の達人ジュニア検定公式テキスト』があります。このテキストを活用したり、観光ボランティアの方たちを講師として招いたりするなど、ふるさと学習を行っています。また「学校の歴史」や子どもたちの「遊びの歴史」について発表を行った学校もありました。開校150年を迎えた学校では、校長室に残る当時の写真や校内の記念碑を基にガイドしました。

令和4年度、市内の小中学校に各21体合計252体の人型ロボット、シャープの「ロボホン」を導入しました。プログラミング学習を見える化することが狙いです。このロボットを活用し、英語や中国語、韓国語で挨拶できるようにプログラミングして領事館と交流した学校もあります。

一方、領事館側も出前授業を準備してくださいました。韓国総領事館のハンゲルの言葉に関する授業、KPOPのダンス教室、チヂミの料理教室や中国総領事館と岐阜日中文化交流協会の剪纸教室、その他各国の子どもたちの遊びや食べ物、観光や歴史について、学校のリクエストに応じていただき、楽しい出前授業をしてくださいま



した。時には総領事が、言葉や文化、観光について説明してください。観光についてもありました。

子どもたちは交流活動後、「日本とトルコが仲良しだと知りました。もっと仲良くできるような学びたい」「フィリピンの世界遺産など知らないことが多くて面白かった。海がきれいなので、いつか行ってみたい」などと感想を書いていました。

出前授業を行った領事館の関係者は「昨年に続いて津島市に来ることができてうれしい。互いの文化を理解する機会にしたい。韓国と日本は大切な隣人」「中国の剪纸を上手に作って持ち帰ってね。いつか中国を訪れ、素晴らしい文化にふれてください」などとコメントしていただきました。

フィリピンにルーツをもつ児童を集め、総領事から励ましの言葉を掛けていただきました。また8年間に及ぶ領事館プロジェクトでは、韓国の

現地校の教師と児童が3泊4日の視察旅行で津島市に2日間滞在し、市の古民家に宿泊して、南小との交流会を行いました。歓迎のセレモニーでは、日本と韓国の歌の交歓やダンスの披露を行いました。

また、南小での授業体験では、書道や図工、マット運動やドッジボール、英語の授業、給食に参加していただきました。

この視察では、教師間の意見交流をする機会をもち、平成29年度の時点で、韓国の小学校では一人一台タブレットを活用し、デジタル教科書をつかっていることを知りました。また韓国の給食は、好きなものを何回もおかわりでき、教師と子どもの上下関係がゆるやかであることが分かりました。

### トルコ・シリア地震とその後

蛭間小では、令和5年1月にトルコ総領事館との交流を行いました。その一週間後にトルコで大きな地震が起きました。子どもたちは、その被害の大きさを学習し、交流活動を行った6年生が、全校の児童に義援金の募金活動を行いました。「みんなでトルコを助けよう」「何万人の人が苦しんでいます」とポスターを制作し、寄

付を呼び掛けました。「交流会をした後、地震が起き、トルコの子どもたちもがれきに埋もれてしまった。勉強ができる毎日が早く戻ってほしい」と感想を述べていました。集まった義援金は、3月に市の募金箱に寄付されました。

東小ではペルー総領事館との交流会の後、「津島市SDGs未来都市プロジェクト」の発表会を行いました。このプロジェクトの中で「世界中の人とハイタッチ（駅前外国人の方に気軽に話しかける）」「伝統の遊びを体験！日本語教室をみんなでつくろう（津島市の日本語教室で日本の伝統遊び）」「海外のあいさつで日本一（多言語をつかってあいさつ）」「世界のことを知ろう（外国のゲームや遊び）」などの発表ができました。

### 今後の領事館プロジェクト

領事館との交流活動を継続してきて、本市教育委員会では今後のこのプロジェクトの課題についてまとめました。令和4年度の指導事例集を作成し、5年度のカリキュラムを次のように考えました。

や津島の紹介、発表が、総合的な学習の一つの単元となることを維持）。

②オンラインを活用し、遠隔でもお互いの顔が見える関係で、交流を継続する（積極的に発信を行うような現地校とのかわりを目指す。フィリピン総領事館からは母国語の学習講座を実施したいとの申し出があり、活動に加えたい）。

③多様性の理解や多文化共生など、国際交流の目的を明確にして活動する（外国にルーツをもつ身近な友達や地域の方とのかかわりを大切にし、SDGsの視点から持続可能で環境や人権に配慮した総合的な学習の展開を進める）。

④交流する領事館と綿密に打合せを行い、それぞれの国の特色となる文化体験ができるように配慮する（できる限り座学ではなく体験学習「ワークショップ」を計画）。

これからも領事館と領事館をサポートする方々の協力をいただきながら、子どもたちの成長に合わせた国際交流を通じた学びを続け、自他を尊重し合う「共生力」を育む活動を続けていきます。